

総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 平成30年5月24日(木)
10時00分開会 13時30分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室・清水公園
- 3 出席議員 委員長：桜井崇裕 副委員長：中島里司
委員：高橋政悦・佐藤幸一・口田邦男・西山輝和
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員 商工観光課 課長：斉木良博 課長補佐：葛西哲義
観光振興係長：川原基央
- 6 議 件
 - (1) 所管事務調査について
・清水公園活性化事業について
 - (2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（桜井崇裕）：ただいまより、総務産業常任委員会の所管事務調査を行う。

議件（1）所管事務調査について

・清水公園活性化事業について

委員長：本日の所管事務調査は「清水公園活性化事業について」ということで、商工観光課のほうから出席をいただいた。新聞報道でもあったように、阿部町長が清水公園を拠点とした休憩型の観光を目指して公園を中心に構想ができないかというものであった。それに基づいて観光協会等いろいろな会議を持たれているという中で、今後どのようなかたちの中でこういったものが町として展開されていくのかを調査したいと考えている。前段で斉木課長から今日説明に来ていただいた方を紹介していただきたい。

商工観光課長（斉木良博）：本日の所管事務調査は、私課長の斉木、課長補佐の葛西、観光振興係長の川原の3人で対応させていただく。

委員長：商工観光課のほうで資料を用意していただいたので、その説明を受けたいと思う。

斉木課長：清水公園活性化方針（案）ということで、一部まだ協議が整っていない部分があるので未定稿というかたちで締めている。それから、プリントで現地の写真をいくつかつけている。一番最後のページは清水公園だが、清水公園の部分と、体育館を含めたパークゴルフ場、ペケレの森の3つが都市公園として清水公園という指定になっているということで、全体の図面をつけている。それでは資料1頁から説明する。私と葛西補佐は今年4月1日から、川原係長は去年から担当している。

1番、清水公園の成り立ちについて、清水公園は昭和54年に憩いの場として開設をして、長い期間町民に親しまれたり、町外の方も来ている公園。

2番、経過については、平成20年くらいから清水公園活性化プロジェクトが設置され、公園の開設から30年くらい経過した中で、どのようなかたちで活性化ができるのかを議論した経過がある。平成21年11月、観光協会の事業で観光振興に関する提言ということで、コンサルのライヴ環境計画有山氏から提言をいただいた時期がある。この時には提言ということで、有山氏から現状分析や清水町のいろいろな資源について、「このような活用ができますよ」とか、「こんな活用をしたらいいのではないのでしょうか」という提案をいただいている。提言なのでどちらかというと拡大傾向というか拡散傾向で、いろいろな可能性を示していただいた提言。この中でも清水公園の再整備、清水公園若しくは違う場所での道の駅の設定ということの記載があった。そのあと、平成27年3月に観光資源再生基本ビジョンを策定している。こちらについてはパブリックコメントも実施して、町内の観光資源についてどのように進めていけばいいかということをもとめたビジョンになっている。最終的には町民のおもてなしの機運の醸成、交流人口を拡大することによって元気な町民を増やしていこうということが目的として書かれている。この中でも清水公園については情報の発信拠点として整備等をしていくべきというような記載があった。そのほかは、町内のいろいろな観光資源、自然景観、食、農業、文化、スポーツも含めて活用して情報発信、それらをうまくまわしていける体制づくりが必要だという内容になっている。平成28年8月、ご存知の

ように台風10号の災害があり、これまで活性化プロジェクト等で検討していたが、サルビアも被災をされたということで、いろいろな条件等が変化した。平成28年12月、29年3月、29年7月の3回、サルビアの経営者と協議をしている。サルビアについては、土地の形状で水が出たり、土砂崩れがあったりということで被災されて一時休止していた中で、どのようなことができるか、どのように考えているかということで協議をしてきた経過がある。ご存知のとおり、平成29年8月、阿部町長が各団体との懇談会の中で、道の駅構想についての質問があり、清水公園の可能性という部分で再整備についての発言があったということ。これが新聞報道されたり、庁内的にもどのような再整備ができるか協議をしたりして検討作業を行ってきたという経過がある。平成30年度予算では、再整備の中で一時休止していたサルビアの再開に向けて何かできないかということで、浄化槽の改修や、情報発信機能、物販の販売機能を行っていきこうということで予算編成の中で決定されて今現在に至っている。サルビアは平成30年の4月24日からオープンしているが、その前段で浄化槽の改修工事が終了している。それから観光協会と情報発信業務、物販販売業務の委託契約を実施している。1頁の説明は以上。

3番については、清水公園の位置づけについて改めて考えた。昭和54年の設置時の目的は、大きなものとしては「町民の憩いの場」ということで設置をしたが、現在の活用状況なども含めるとゴールデンウィークなど一定程度町外の方も訪れているので、観光施設という位置づけも可能かと思っている。阿部町長が今標榜しているのは「休憩型観光」。宿泊施設がないわけではないが弱いということで、休憩型の観光を進めて町内に賑わいを創出していこう。「食の拠点構想」という言葉も出て、新聞報道では清水公園を「食の拠点」という書き方もしているが、町長との協議の中では清水公園を拠点ということではなくて清水町全体なり、広い範囲の中で拠点という捉え方をしている。これには町外の方が目的地として来てもらえる清水公園の整備が必要であると考えている。

4番、清水公園の魅力という部分で、改めて清水公園の中のいろいろな要件、項目等について整理をした。ざっくり整理をすると、広大な面積の芝生というかグリーンがあって、パークゴルフ場がある。そしてボートがある池というのは本別と清水くらいしかないと聞いている。どちらかというとも自然を楽しむ、満喫するような体験をする公園ということで、20代～40代くらいのファミリーや高齢者の方のパークゴルフだとかで来場されていると思っている。

5番、清流観光株式会社の施設の特徴として、サルビアは敷地内で唯一有人で管理運営されている施設。当初は昭和62年に、有志が町内に清流観光という会社をつくり、「レスト&パーク」という名前で営業を開始している。一時期違う方に営業が移り、現在サルビアというお店で利用している。平成28年8月の災害前、2年ちょっとくらい営業していた中では、30～40代の親子だとか女性同士のグループが訪れていて、清水公園の景観を楽しんだり外で子どもたちが遊んでいるのを見ながら食事をしたりしていた。サルビアのメニューについては清水町内や十勝の食材を使ってわりと自然志向のメニューを用意していて、訪れる方もそのような志向の方のよう。

6番、活性化に向けて必要な整備について今後考えるときに、ターゲットはどうかということをしていろいろ検討した中では20～40代のファミリー、子どもたちが公園内で遊んでいたという部分も見受けられるので、そのような方をターゲットとして

考えていく。そういう推測をしていくと女性の方が「そこに行きましょう」と希望するような施設の整備を行うことが必要かと考えている。隣接する体育館、昭和45年前後だったと思うが、年数も経過して老朽化しているということで、建て替え、移設等も検討に出ている。まだ5年以上の期間はあろうかと思うが、体育館の在り方を含めた検討を行って行く中で、例えば清水公園自体の形態が変わるような大規模な整備という部分についてはその時期なのかと考えている。清水公園の大きな施設の形態を考えるとすれば、例えば千年の森のような鑑賞型の公園として考えるのか、それとももう少しアスレチックだとか子どもが遊ぶものを整備するような体験型の公園にするのかという方向性も定めた中で検討していく必要がある。もう少し時間がかかるかと思っている。具体的な話は出ていないが短期ではなかなか難しいので、ある程度コンサルを入れながら、補助事業などを探しながらそういったような整備はされるものかと想定している。「(1) 速やかに整備等を実施(平成30年度及び31年度)」として、昨年からの経過の中でサルビアも再開し、清水公園内に必要な整備を、わりとすぐ改修する部分と、「(2) 長期的視点で整備を検討(平成31年度以降)」として、もう少し長い目で改修する部分に分けて考えて整理をしている。「(1) 速やかに整備等を実施(平成30年度及び31年度)」の1点目はサルビアの前の駐車場から上がるものと、その1段上に上側の広場に通じる長い木製の階段があり、それぞれ経過年数が経って損傷している部分がある。下の部分については一定程度木製なり木製に似たような形の階段として整備をしていかななくてはならないということで建設課と協議をしている。公園内を歩く園路があるが、雑草があったり、若干改修についても必要かということで現在検討をしている。長い木製の階段については、なかなか金額もかかるので、土砂などが流れて歩きにくい部分については土砂を埋めながら、損傷箇所を修正しながらもう少し様子を見ていく。2番目のトイレについては、経過年数が経ってきて外観も少し汚れが見えてきている。なかなか女性の方が「あそこのトイレに寄りましょうか」というようなトイレにはなっていないと思っている。建設課のほうで管理をしているが、管理以外の部分でももう少しきれいなかたちをしていく必要があるかと思っている。身障者用のトイレ、それぞれのブースの中で子どもを座らせるような設備が最近のトイレにはついている。現状では個室ブースの外にベビーベッドみたいなものがあるが、それだと、お母さんが入っているときには目に見えない状況になる。協議の中では、最近の観光施設に見られるそれぞれのブース内に子どもを座らせるようなものを付ける。洋式トイレが一個ずつ、和式も女性のほうは2つ、男性のほうは1つで、まだ和式が残っているということで、洋式化の改修も含めて、今年度夏場の利用状況を見ながら、できればオンシーズンを過ぎた後、秋口から冬にかけて工事ができればと検討している。合わせて現在までトイレは冬期間閉めていたが、サルビアが通年で営業しているということがあるので、冬期間の開放についても検討を考えている。今話をしたが、トイレも含めて観光施設として位置づけているので、必要な維持管理を行っていく。それから樹木についても、ツツジとかいろいろな樹木があるが、見栄えのするとか、「管理がされているんだな」という剪定についても行っていく必要があると考えている。コンビネーション遊具があるが、建設課のほうで清水公園を含め都市公園の遊具の点検を今年度と来年度で行うそう。清水公園については今年度と聞いているが、その点検を行った中で必要があれば改修等を行う。また、どこかの懇談会の中で「もう少し充実したら」という意見があったが、現状ではスペースの都合上なか

なか難しいと考えている。交通手段を持たない方、交通弱者の方について、コミュニティバスをまわしたらどうかという検討もした。現在体育館前の橋がまだ改修されていないので、今のコミュニティバスの経路から清水公園をまわるとなると、少し迂回も必要だったりということで時間がかかっている。現状運行経路を変更してまわるといことは難しい。ほかの車の運行ができないか模索している。「(2) 長期的視点で整備を検討(平成31年度以降)」については、次年度以降の中で、もう少し長期的なスパンで考える項目。1点目はペケレの森の再整備。平成28年8月の台風災害で削られていたり、いろいろな箇所が被災している。災害復旧で川の形状が変わるようなかたちで整備がされていて、その両側に管理道がつけられることになっている。災害復旧工事で管理道をつけるが、管理道については散策路という位置づけをして一定程度の修景等が行われるが、それ以外に大きな面積の土砂とか砂利が見えたままのところがある。その部分については災害復旧工事の対象にならないということなので、5月15日に建設課と私のほうで鹿追の土現に行って、何らかのかたちで道の事業の中で修景等ができないか協議の要望をしてきている。その中で「わかりました」ということには当然ならず、今後何らかの事業を見つけるなり、お互いに協議しながら進めていくことになっている。池の部分の再整備については、実は災害によって土砂が流入し、堆積して段々浅くなってきたり、少し濁りも出てきたりしているので土砂上げを検討してきた経過がある。その中で水道の石綿管が池の下を通っているということがあり、庁内的には石綿管を違うかたちに更新をすることで別の工事を計画的に進めている。清水公園の石綿管の部分も池の下を通すのではなくて違う路線で改修をする計画をしているが、例えば国道の道路敷地だったり、消防のあたりまで続いているということで、途中でJRを横断するというので、JRや関連する機関との協議がまだ全て整っていない。平成31年若しくは32年の中で更新していくということで、池の再整備についてはその日程が確定してから検討すると押さえている。いわゆる吊り橋の太鼓橋や、橋を渡った奥に日本庭園などがあるが、40年くらい経過していて時間の経過とともに劣化している部分がある。それらを含めて、全体的な改修については体育館の建て替え等の方針を含めて総括的に検討していこうということになっている。これらについては、実はこれまで4月・5月を含めて、町長、副町長、建設課、企画課、商工観光課でこの内容について協議してきたが、③体育館の連絡通路(トンネル)の部分以降については、まだ協議をしていない状況。商工観光課としてのたたき台ということで示しているもの。トンネルについては照明が壊れていたり、けっこう汚れていたりということで改修の必要はあるが、やはりこちらも体育館の建て替え等を含めて総合的に検討していくことになると考えている。敷地内の樹木がけっこう伸びていて、上の東屋から見ると池や緑の芝生をけっこう遮ってしまう状況がある。本数の部分や剪定が必要だろうと思っている。パークゴルフ場の帯広側奥に梅林や栗の木がある。観光協会の中での議論だが、秋に実をつけたりするのでそこに家族連れの方が集まるような仕掛け、イベントなどできないかという検討が今されている。現状のままですぐ「集まってください」というのもどうなのかということで、植樹などそういうものも検討している。バーベキューハウスは1棟40人規模で屋根のついた部分と、いくつかのバーベキューコーナーみたいなものがあるが、もう少し拡充したり増設したりする必要があるかということと、子どもたちが遊べるような斜面を利用したすべり台とか、遊具とか、そういったことも再整備の中では検討が必要な項目か

と思っている。合わせて、現在はないがキャンプサイトの必要性なども検討が必要かと思っている。遊具の再整備については先ほど話したとおり。最後に公園の管理の指定管理化の部分。現在建設課の公園緑化係が管理をしている。観光施設としての管理を行うという部分では一定程度そういったような視点での管理が必要かと思っている。では、誰がという部分ではなかなか見通しがついていない。観光施設としての魅力が増加するようなことが、民間の方で管理ができるということは考えられる。指定管理についての検討については全くしないということではなくて排除しないで検討していく必要があるかと考えている。長くなったが、今現在清水公園の活性化について考えていること、一定程度結論が出て今後整備をしていく内容について説明した。

委員長：今説明を受けて、清水公園の活性化に向けて、阿部町長の基本的な考え方がちょっと新聞報道とは違う部分もあるということを確認しながらお聞きした。清水公園について、災害を受けていろいろなものがすぐやれる部分と将来的に体育館構想がどうなるかという部分で長期に進む部分とがあるという話をいただいた。この説明を受けて委員の皆さんのほうから何か質疑があればお願いしたい。

高橋委員：何点か質疑したい点があるが、まず最初に1つだけ聞いておく。清水町観光資源再生基本ビジョンの策定にあたり、パブリックコメントを取って参考にして作ったと言っていたが、どれくらいの数があってその内容がどうだったのか教えていただきたい。

斉木課長：平成27年6月15日から7月14日の1か月間パブリックコメントを行い意見の聴取をした。件数としては3件、13項目。文言の修正等が大きな部分かと思う。「増加」を「拡大」にするとか、文言の修正が多かったかと思う。

高橋委員：つまりそのパブコメはあまり反映されていないというか、そのままだったというかたちか。

斉木課長：方向性については基本的には大きく変わっていないと思う。今資料を見た中では目標について具体的な数値だとか目標年次がないので、そういった部分について示したらという部分があって、その中で「現時点では数値は示すものではありません」という回答をしながら最終的には案を示したものとほぼ同様な内容で決定をしている。

高橋委員：資料の2頁で「清水公園活性化の一つとしてサルビアの再開が重要なポイントであり」となっているが、これは誰が判断して、どの部分が重要だと判断したのか教えていただきたい。

斉木課長：これは私がつくった文章なので私が入れたもの。協議の中では特にその部分をどうとやりとりした経過はないので私の考えがそのまま生きているということ。清水公園については景観を楽しむということでファミリー連れが来られたりするが、それとは別にサルビアには、その営業方針に基づいて、もう少し上の女性の方のグループだとかが来られているということもあり、少し来られる方の範囲が広がるというターゲットが広がるということもある。それともう1つは、パンケーキだったり、道内一箇所と聞いているがイタリアのカリアーリのコーヒーを出しているということもあって、それを目当てに来られる方もいるので、清水公園を目的に来られる方、サルビアを目的に来られる方もいるということで、含めて重要な施設と私は考えたということ。

高橋委員：私も課長の言うとおおり、あそこが重要なポイントになると思うが公式な資料に記載されているということで誰が言ったのかを確認するために質疑をした。

次の質疑。体育館のことについて5年くらいという表現をされたが、平成30年3月に建設課で出した耐震改修促進計画の冊子について、公共施設の耐震化の中で文化セン

ターは終わり、あと残り1箇所が体育館。計画書には平成32年度末までにとまっているが、課長の言われる5年とは整合性が合うのか。

齊木課長：私は実はその耐震改修促進計画の資料は見えていないが、公園の活性化に向けた協議の中で、町長や副町長、建設課もいた中で話をした中では、文化センターが平成30・31で耐震化をやり、その後、例えば関係団体と体育館をどうしたらよいかという協議をしたりというような手順を踏んでいくと、5年くらいはかかるという前提の中で話をしてきた経過がある。

口田委員：清水公園活性化の件についてはいろいろと言いたいことがいっぱいある。ご察しのとおり一般質問でもいろいろと言っている。今この方針を眺めても、何も見えてこない。今までと同じではないかと。町長が食の拠点づくりなんて何を大げさなことを言っているのかと言いたい。サルビアの開店だけで何も変わっていない。あと目玉は何かと。これでは人は集まってこないというのが本音。目玉がほしいが今は何もない。サルビアの開店だけを大げさに言って、それを食の拠点に結び付けてやっているだけにすぎないのではないかとというのが私の考え。

齊木課長：今年4月に来て、こういったような命題が目の前にあってどうしたらいいかということで、前任の高金課長が整理したその前の経過の部分は何回も読んで勉強をしたりした。阿部町長が昨年8月や今年度の予算編成の中で、サルビアに対する委託業務の部分や浄化槽の工事を早急に平成30年度予算でどうしてもやりたいという経過を見てきた中で、今年度、清水公園の活性化・再整備の部分について一定程度見える形が必要で何かできないかと思った。今の段階の整理としてはこのような形になっているが、方針として平成30年度なり31年度なり、こういうことをするというのもう少し盛り込みたいと思っていた。今はまだ協議の検討途中だが、鑑賞型公園の再整備だとか、体験型公園の再整備だとか何か方向性をつけていきたい。例えばアイデアとしては千年の森のようにデザイナーの方が清水公園の一角をガーデンとして整備するとか、斜面を利用したアクティビティがたくさんあって、子どもたちが行きたくなるような公園を目指すだとか、そのような方針を出せばいいというのは4月・5月の頭くらいには思っていた。ただ、協議をしていく中で、例えば池の水道管、石綿管の更新の関係機関の協議だとか、体育館の更新のスケジュール的な部分だとかを考えると、なかなかすぐにはできないというのも現実として目の前にある。考え方として、清水公園の部分、体育館ゾーン、ペケレの森ゾーンと分けて整備をできないかとも考えたが、そうすると単費でないといけない。補助事業にならないという形になるということで現在に至っており、この活性化方針案という状況になっている。

口田委員：課長はまだなっただけだからいろいろわからないだろうと思うけれど、前々からの継続で言えば、何も変わっていないというのが私の思うところである。これからやはり何か1つ目玉がほしいということが本音。

西山委員：もう少し、駐車場とかその辺も考えていかないと。あれだけの駐車場では少し狭い。パークゴルフ場から降りてくるのも大変。下にもう20台くらい置ける場所を早めに作ってあげてはどうか。いろいろ次から次へと整備をしなくてはいけないということもよくわかるが、早めに考えたほうがいいのか。

齊木課長：この資料には無いがやはり駐車場についての話は出た。サルビアの所にある駐車場、それから上の駐車場を含めても、やはりそんなに台数を止められない。ゴールデンウィーク時の現状を見ると、溢れるということではなく、いっぱいにはなっているが収ま

るくらいで来ていると思っている。もう少し人を集めたいとかイベントをやるとなると体育館を含めて止めてくださいと。だけど、トンネルがあまりきれいではない状況だとかパークゴルフ場があったりするので経路がわかりにくいということもあり、駐車場は何かしないとという話は協議の中で出た。旧国道を曲がって少し御影側に行ったところから入るようなかたちで考えられないかという話は出ていて、太鼓橋の奥に小さく池がつながっている部分があるが、例えば奥の池をなくして、池の形状を変えて、駐車場を増やすという方法もあるかという話が協議の中では案として出ている。

西山委員：この間僕もひと回りして現地を見てきたが、公園の下の所、池の旧国道から入るような所はやはり1つつくってあげたらいいと思って見て来た。パークゴルフのコースもあるので一概には言えないが、遊歩道だけつけば、池の周りからサルビアのほうまで上がってこられるようなスペースは十分にあると思う。その辺を考えてあげたらいいかと思う。

斉木課長：来年ということにはならないが、池の全体的なレイアウトを含めて何らかのかたちで検討は必要だという話にはなっている。スパン的には体育館の建て替えを見通してどこの時点でやるというのはこれからの検討が必要だが、職員のほかに町民の方に入っただけの方法もあるが、この場合でも専門家的な空間のデザインができる方にアドバイザーのようなかたちで入っていただきながら検討するというのも1つの方法かという話も出ていた。

西山委員：あと、上のパークゴルフ場に行く道路自体も入りやすく皆さん大変だと思う。もうちょっと上へ行ったら墓地のほうからでも入る道路が一本あるので、そういう所から入っていけるようなことも考えていけばもう少し上の駐車場ももっと広くしてあげて両方できるような感じであればいいのではないかと思う。

斉木課長：分かりました。

佐藤委員：有志8名がそろって出資した清流観光株式会社というのは私たち8名だが、その時はせっかく外から清水に来たお客さんを歓迎しようと思って「レスト&パークしみず」を開設した。ターゲットは車で来る町外のお客さん。町外に宣伝することができなかったのも、道路に旗を立てた。そうしたら当時の町議会議員から清水公園のイメージが崩れるからやめなさいと言われてつぶされた経緯がある。そういうことがあったから、今やっているサルビアについてはよくやってほしいと思ってお願いをしたい。

中島委員：特に強く関心を持ったのは、予算審査の時に、浄化槽に限ってということだろうけど町が丸抱えという状況でやるということで、その正当性をいろいろ説明はあった。結果的には反対者はいなかったように思っている。その後、実は町民から強い意見があり、比較対象として良い悪いは別として、農村部でも浄化槽をつくる時に満度のものではないという。災害の最中でも結局は町民の方々が特に上下水の関係で被害を受けたことについてはどういう対応をしていたのかと。なんでそこの意見が複数あった。私は反対していないので、その方には苦しい説明をした。それはもう過ぎていくから、今後どうやったらうまくいくのかということに置き換えなければならないと思っている。課長は4月に変わったばかりということだが、きれいな課長ですから今後考えてもらいたいのは、ここの公園はプロはあまり入れなくていい。素人の公園の魅力がつかれるではないか。さっき課長はたまたま千年の森云々と言った。千年の森と同じようなことは駄目。向こうはセンスがすごい、清水公園は田舎っぽい、素朴さを感じる。向こうはプロがやっているから艶やかさを感じる部分はある。私はそうい

う部分でぜひ職員だけで。町民に意見を聞くというけれど、正直言って僕はパブリックコメントにはずっと疑問を持っている。町民の方もいろいろな部署でそれぞれプロ化しているが、職員はやはり文書をつくるのはプロだから、素人にその文書を見せて意見をくださいと言っても出てくるわけがない。だから先程のパブリックコメントの話で、年度が入っていないじゃないかというのは町民から見たらそういう思いをする。それは文書の中身のことでないでしょう。それを聞いてまず一つ目の質疑。清水町だけではないと思うが、今行政サイドで何かあると総括的、包括的という言葉が多く使われる。だから何もできない。体育館については5年後云々との話が出ていたが、なくなってからやるのではない。ある時点からもうよしとしたのならそこを整備する前提を考えなくてはならない。どこに行くかは別として、もうすでに議会の中で体育館を移設するという事は、ある程度了解している。あの場所に無くなるということを考えれば、もう少し年次的なもの。あれもこれもではなくてまずやれることから。阿部町政と何回か出てきているが、阿部町長の任期は4年で、もう3年切っている。そうすると、いいものをつくることによって次の世代へ引き継がれていくような構想でなくてはいけない。今まで行き当たりばったりだったから、行き当たりばったりではだめ。観光施設として場所的に決して悪いところではないが、サルビアがある位置は見通しが悪い。だったらどうやってプラスアルファ的なものをつくるか。歩くのが目的、見るのが目的なのでお金はかかるけど階段をつくる。今は急勾配だが、ずっとゆっくり行って清水の町を眺めながらだんだん広く見えるように。昔は舞台の上から展望できたがそこまでやらなくても町を見渡せる程度にして、反対側の大雪山が見える辺りをちょっと変えて、散策してもらう。散策をする目的を提供するのも一つアイデア。プロに任せたらそんなことにならない場合がある。素人だから、住民だからということで考えていただきたい。ということで、包括的ということではなくて一つずつやれることから確実な構想を作っていただきたい。少なくともあと3年間でやれることについては、年次の整備計画を持っていいのではないかな。案を持っていて町長が発信したのなら別だが、町長が発信した後で案を作ってくるから無理が出てくる。いろいろ言ったが、一つのまとめとしてまず3年なら3年でやれるところから計画し、その先は構想としてしっかり引き継いでいけるような計画図を作ればいい。それから、体育館はもう現在の場所に無い前提で計画してもいいのではないかなと思う。

齊木課長：この案を考えながら思ったのは、やはり今年度中に3年間でできること、5年かけなくてはできないことを含めて整理をして方向性を決めたいと思っている。どこまでできるかというのは、自分自身の力量だったり、町長の最終的な決断だったりすると思うが。今いろいろ考えているのは、千年の森というのは単純な思いつき。千年の森の方とも話したが難しいというようなことを言っていた。どうしてかというと、千年の森にゴールデンウィークで来た町民というのは一桁二桁だという。入場料というものもあるが、同じものをつくっても町民の方は行かないという部分は自分も思った。どういったようなかたちかはわからないが、観光施設として目的地となるような、例えばあの公園行ってみたいというような帯広市民がいるような施設の方向性付けはしたい。ゾーン分けをするとといったことも含めて話をしたことはあるので、何らかのかたちで今年度、来年度の中では年次計画をもった方針づくりはしたいと思っている。たしかに総括的ということをする、こちらが決まらないと全体が決まらないという感じでいつまでたっても決まらなくなる。何らかのかたちで方針付けはしたい。町長、

副町長、企画課を含めた中で、町民を入れたりしたらいいのではないかという話にもなったが、町民の方を入れて要望ばかりになると広がるだけ広がって、どこかを切るとなると理由が必要だったり、職員としてこれは反映できないという判断をするときに、厳しいというか発言した人の顔が浮かんでしまうということがあったりする。専門家については、そういったときにある程度アドバイスをいただける方がいると、明確な根拠を持って言ってくれることが期待され、そのような調整ができればいいという程度の話で考えていた。職員を含めてまずは子どもがいる世帯の意見を聞くとか、意識調査みたいなものを含めてやりながら今年度なりに方向性は決めたいと思っている。

中島委員：今の時代にマッチするかどうかは別として、この公園をつくったのは全くのど素人。職員が現場に行って思いつきでつくったと。思いつきという言い方は誤解しないでほしい。現場に行つてつくったということで。そのときの担当は商工課長だった。都市計画上の公園ではないと認識をしている。その後都市公園として指定を受けたはず。素朴さを感じる公園らしくない公園もある。ちょっと昔に聞いたことがあるが、プロが見たら、公園としてここはどうだとかいろいろと言われたことがある。それに対して「だから魅力ではないか。プロが指摘するということは良いにつけ悪いにつけ魅力じゃないのか」、「そう言われればそうかもしれないけどね」という話をしたことがある。パブコメで町民の方、使う側から意見を聞いても世代は変わる。それともう一つ職員がなぜそういう思いをしたか。職員として自分の思いも多少入っているという公園。コンサルですべて作ったものに自分の愛着なんてない。担当者で入れたことに誇りを持って後世に自分が楽しめる、喜びを感じるようなものづくりというのを是非お願いしたい。職員もそのような考え方を持って、立派なところじゃない素朴さを感じる公園があったら見て歩くべき。聞いてからやるのではなくぜひそういう目線で心がけてほしい。皆がこう言ったからではなくて、自分で考えてなぜそうしたかということの説明しないと担当者でいた誇りというものは残らない。新たな発想でぜひ生きた構想をつくってほしいし、確実性のあるものから着実にできることをやっていただきたい。文書ありきではなく現場ありきでぜひお願いしたい。ただ私は実際問題としてあの場所で大きな変化をもたせることは難しいだろうと。都市公園として指定を受けてどこまでされているのか今調べている最中。それがどこまでできるか。補助対象事業がないということなので、なおさら短期でこつこつと構想を持った上でやっていく考え方にしていきたい。課長の考え方について、要望も含めて新たな気持ちでということがあればお聞かせ願いたい。

斉木課長：建設課、企画課と話をしたり、サルビアの経営者とも話をしたりと短期間だったがいろいろな意見を聞いた。当初建設課は職員の意識としては大規模な事業でやりたいというのが気持ちとしてあった。維持管理についても最低限やっている。観光施設ではなく仕事として最低限十分な維持管理をしているという意識だった。協議をして、観光施設としての維持管理はどうかという部分を改めて考えたりした。当初は月～金曜まで清掃をやっていたが、観光施設で連休を含めると土日にも人は来るので、トイレの清掃を土日もやらないのは変ではないかということも建設課として思っていて、最終的には土日も含めて清掃してくれるようなかたちが変わってきていたりする。サルビアの経営者の方に、清水公園活性化ということで議題にのぼっているが何か要望がないかと聞いたら、ほぼ要望はなかった。「トイレをきれいにしてということと、

安全を感じる、管理をしているということがわかるような施設管理をしてほしい」ということと、「大きなことを変えるとか、池を変えると、そういうことは望まない。この芝生は素晴らしいじゃないですか。この景観は素晴らしいじゃないですか」というような意見をいただいている。確かにそうだと私も思っている。今言われたように、本当に補助事業がなければやれることは限られる。そうなるゾーン分けをして今来られている方が満足するような改修、整備をしていく範囲の中で、ロコミで「あそこはいいですよ」というかたちになる公園づくりをしていくというのも一つの方法だと思し、いろいろと協議をしながらそのようなことをまとめていきたいと思っている。

委員長：根本的には道の駅がどうして清水にないのかというものがあろうかと思う。これだけ交通の便がいい、そして道東の入り口であるという状況の中でなぜそういったものがこの清水町にできないのかという町民の考えもあろうかと思う。ラジオで国道、高速を降りて「清水町に入ったら清水公園がありますね」という話をよく聞く。公園があって、目分料だとか牛玉井だとか、「清水町にはこういうものがありますね」というような話をされる。だからそういった観光の部分で、やはり清水公園というのはそれだけの可能性を持っていると思う。若い頃は公園で、町や商工会主催の花火大会だとか、イベントがたくさんあった。それがいろいろな事情で無くなってきている。できればやはり清水町民の憩いの場であるということをもっと重点においてほしいと思う。プラス観光であると。女性をターゲットにするというのもいいが、若い子育て世代が憩いの場所に行けるとか、町民が清水公園でゆっくりできるというような構想が極めて大事だと思う。清水と本別だけがこういう景観であるということであれば、なおさらそういうものがあろうかと思う。

斉木課長：町民の憩いの場という部分では、町民の方も含めて子ども連れの方が来られているので、子育て世帯が集まりやすいとか、来てもらえるような公園の魅力づくりは確保したいと思っている。

委員長：女子会で来て、ちょっと食事もしながら遊んで帰れるというようなものは大事かと思う。これから現地調査の時間をとっているの、ここではこの程度でいいか。

(よろしいの声あり)

委員長：それではこれから現地視察を行う。休憩する。

【休憩 11:05】

【現地視察】(11:13~11:45)

商工観光課の案内で、清水公園及びカフェダイニングサルビアの現地視察を行った。現地視察終了後、説明員の商工観光課職員は退席した。

【再開 13:00】

委員長：清水公園活性化事業について、現地を見てきて、また担当からの説明を受けた。委員会としての所管事務調査報告のまとめとして、現地調査や説明を受けて新たに感じたことなど、それぞれの感想や意見をお聞きしたい。

佐藤委員：現地調査をした中では、私たちが見た当時のレスト&パーク清水のときは名前が変わっているが、お客さんの入りが違うという思いをしている。公園全体を見て今は一

般の人たちの立ち入れるような公園ではないような気がする。商工会なり観光協会なりという言葉も出ていたが、あそこで人集めに何かをやってみるという構想をもう一つ商工会でも観光協会でもできないのであれば私たちは何かをやらなくてはいけないという感じがした。

中島委員：お客さんの多さには、正直言って嬉しく思った。公園云々という部分で、やはり継続性のある計画書づくりというものを目指すべきであろう。これは内容から言って、町長の任期4年でできるものではないだろう。そういうものを踏まえたしっかりとした計画書。これは内部である程度そういうものを持っていてもいいと思う。その中で先ほど課長からもお話があったように、現状補助対象事業になるような事業はないということは、イコール単独費であると。単独費であればあるほど、財政規模からいってもしっかりとした計画書を持って小さなことからでもこつこつと当初から目指している計画の実行に向けるべきであろうということを感じている。現状の公園、佐藤委員が言われた観光協会なり商工会が昔花見をやったような、自分達の町内も場所取りをしたりそういう盛り上がりがあったけど、財政が厳しくなってからやめてしまった。そういうものを行政に委ねるのではなくて、それぞれの団体が可能な知恵を出し合った活動というのを求めていくべきであろう。行政がリーダーシップを発揮してしまうとなかなか続かない。そのことから言うと、町が何かしようということにはならないので、私は商工会なり観光協会というのがそれぞれの立場で活性に向けて努力願いたいという感じもしたところ。

高橋委員：予算委員会のおきに出てきた立ち位置が、今回の調査では全然出てこなかった。観光協会に業務委託して清水公園を観光拠点にするという答弁があったと思う。実際の話、今回の資料では行政側、執行側が全てやるような感じで書かれているし、今後の観光協会との関わり等々も全然わからないところもある。目的としては素晴らしいことだし、清水町で一番とつきやすい素材であることは確かだと思う。その件に関しては何の問題もないと思うが、どうも業務委託される側の観光協会の動きがまったく見えない。もう少しかたちとして全町民が納得するような事の運びをしていただきたいと感じた。

口田委員：公園の活性化方針が決まっていなくても、現時点で言うと、今の公園を町民の憩いの場として位置づけるか、それとももう少し町外の人をいかにして来てもらうか、その焦点が、どっちに重きを置いて今後進めるのかということを見極めなければならぬと思う。ただ町民だけの憩いの場、ほかの人は来てもらわなくてもよいと言うのであれば今の施設でいいし、今の場所でもいい。一方、もう少し集客力を狙った考えで公園を活性化するということになれば、もちろん今の駐車場でもだめだし、根本的な考え方から変えていかなくてはならないと思う。今現地に行って感じたことは、我々は観光協会に対しての補助金として承認したのでその使い道についてどうのこうの言うことではないが、あそこに側溝でもつけて雨水対策をしてあるのかと思ったら何もやっていない。単なる浄化槽の設置だけ。ちょっと変だと一瞬感じた。それはまた後の問題として感じた。

西山委員：現地を見て、散策路をもう少しきちっと整備していけば歩いて上がっていても周りがだんだん良い景色が見えてくるので、やはりあの辺を歩きやすいように何か考えていってあげればいいかと思う。休憩する煙草を吸う所あたりを2階建てにして展望できるような感じにしてあげれば、すごく見晴らしがいいので良くなるのではないかと

思う。

委員長：ほかに何か気が付いたところはあるか。私も皆さんと一緒に行って、平日であるのにあれだけサルビアにお客さんが来ているということもすごいと思ったし、ゆくゆくは駐車場なりトイレなり、やはりそういったものにも対応していかなくてはならないというのも見えた。午前中の担当課の説明の中で、町長が公園を食の拠点にするのではなく、ここを観光案内の一つとして清水町の中の食の拠点という流れをつくりたいという考え方を持っているということ。それについてもやはり受け皿となる商工会、あるいは観光協会のような組織に行き渡らないと、行政だけの思いではうまくいくものではないと思う。そういったものをどう立ち上げていくかということが今後課題とされるだろうと思う。皆さんの感じたことでまとめということになるだろうと思う。公園の維持管理としてすぐやらなくてはいけない部分と、将来を見据えたものもまだほとんど青写真ができていないような中での調査であったが、今後調査を継続とするのか、これで終わらせて報告書として委員会としてまとめるのか。どう進めたらよいかお諮りしたい。

中島委員：継続しても、確かに長いスパンの事業だと思う。継続した場合、次に何を調査するのかということになれば、継続ということにはならないのではないか。現状の中で、一定のことを調査終了として締めくくり、その中でこれから行われる計画書づくりの参考になるようなまとめと委員会としての提言というか、そういうかたちで締めくくっていいのではないかと考えている。継続してもいつまで待つのかという先が見えない事業だろうと思う。一度これは調査終了としていいのではないか。

委員長：ほかの皆さんはどうか。

口田委員：私も賛成。この活性化方針案の説明を受けて我々の提言を含めた意見として締めくくったほうがいいのではないか。

高橋委員：もう予算執行をしている状況であって、後手だけど当然この後に計画が立つものと思うが1・2か月の間に計画が立つものなのか先程それを確認するのを忘れた。もし立つのであればその計画を見るまで待つという手もあるだろうし、立つ見込みがないのであれば、それを待つことにはならない。委員会としては、例えば今回の調査でこういう調査をした結果こういうふうにしていただきたいという報告書を出すのか、又は継続調査をしてどこかに視察に行って、その結果を肉付して報告するか、そのどちらかと思う。それは皆さんのご判断にお任せする。

佐藤委員：今回を一区切りとして、こういう結果になったということを申し入れたらよいかと思う。

中島委員：今高橋委員言われたご意見で、1・2か月で計画ができる状況であれば確かに次という部分をとらえていいと思うが、私見だが時間がかかるだろうと思う。2・3か月では無理だということは、できなくても実際できることからやってほしいと思っている。体育館とかほかの部署に所属する部分があれば、公園という部分がどこまで手をつけられるのか。都市計画法の指定を受けていれば、何に使ってもいいということにはなっていないと思う。その辺も勉強不足のところがありますけれども、それを踏まえたなら2・3か月では無理だろうと。今年度中あるいは今年中にとか、その程度の範囲という推測をしている。私は基本的に課長に言ったように、可能な限り職員でまず勉強してある程度骨格をつくった上でということ考えている。若干時間はかかると思うので、先ほど申し上げたようなことで、調査終了としてはいかがか。

委員長：事務局から、9月の定例会までの所管事務調査が道内視察研修を行うのであれば、事前にそれなりの日程調整をしてほしいとのこと。今回公園の現状と構想をある程度お聞きして、できればそういった機会に提言を出す前に、似たような構想というか、活性化を行っているような自治体があれば見る機会を得ていろいろな意見を聞くのもいいかと思った。そこまでしなくていいということであればこれで調査終了として、次回何か新たに所管事務調査項目を挙げるということになるかと思う。先ほど商工観光課長からも、道の駅でもそれに至るまでの経緯とかいろいろあると思う。地場産のものを売る売らないとか、観光がいろいろ絡むとか。

中島委員：今回は清水公園ということで限定された調査。今回の調査案件はそれで終わらせて、もし所管事務調査で視察が入るとすれば清水公園云々ではないと思う。この公園ということに限ってではなく、もっと広げたかたちで項目を出していかなければならない。最初に補助金を出したことから始まって、この項目をやろうということになったと思うので。行政としてのまちづくりの中で出てくる商工振興とか道の駅らしきものを含めながら、これはまた別な調査としてまず勉強してもいいのではないか。今回は清水公園に限っているわけだから、この申し出の調査とは一緒にしないで、それはそれで終わらせる。もし委員会の所管で町外に行くのであれば、継続したらこの清水公園に限ってしまうので、広いかたちで所管事務調査をするためにも一回調査終了をしていいのではないか。

委員長：今中島委員言われたように、ここで調査終了としてもよいということだが、それでよいか。

(よいとの声あり)

委員長：それでは今回の所管事務調査については、今回の調査で終わらせる。それについては報告書の作成等、どのようなかたちでまとめるか。毎回正副委員長でまとめるということであったが。

(それでよいという声あり)

委員長：それでは私と副委員長でまとめる。また、次回の定例会中に所管事務調査の申し出事項を協議することになるかと思うが、先程の視察研修について、するかしないかは別としてそういったものも含めてこういう調査をしたらいいいのではないかというものがあればこの機会に出していただければ段取りもできるかと思う。ほかに何かあるか。

口田委員：どこかに調査に行ったほうがいい。

委員長：道の駅で最近新たに出来たところであれば、士幌は全道で2・3番目の上位に上がってきている。いろいろなかたちの中で競争もあるが、いろいろなものがある。

中島委員：今回補助対象事業がないということで、それが引っかかっている。士幌あたりは国道を絡めているパターン。そういうほかの行政を絡めた中で何か手法がないか。ただ何とかしてくれでは動かないので。うちはたまたま国道がメイン。国道38号線あるいは274号線、国の道路とその辺をタイアップしながら。場所的には非常に難しいだろうと個人的には思っている。例えば、日勝峠が災害のときに長い間通行止めになり、一晩二晩の場合のトラック等々の動きがどうなるのかも踏まえた中で、そういう事業が国としてどこまでカバーできるかというのも勉強しなくてはいけない。士幌町のようなわけには上手くいかないかもしれないが、何らかのほかの事業とからめて少しでも地元負担を減らしながらという部分も含めて。物産館のようなものがあれば、それも含めて所管事務調査をしてもいいのではないかという感じがしている。今までは恵庭

や風連を見たことがある。今のうちの課題は町全体の中で受け入れる体制であるので、何かいいことをやっているところがあれば勉強させてもらってもいいのではないかと思う。

委員長：今中島委員のほうから視察研修を含めて、先進的に国道とかいろいろなタイアップをして、いろいろな方法があると。そういうところがあれば経緯をお聞きしたいということではいいか。

口田委員：例えば、トラック協会と交渉して、休憩所やコンビニのなどとタイアップしながらいろいろな面で考えられるのではないか。そこら辺を研究してみてもいい。

委員長：ほかの委員はどうか。委員の皆さんにもそれぞれいろいろな情報の中で調べてもらわなければいけないと思うし、わからないものについては所管の担当課、あるいはいろいろな人に聞かなければわからないと思う。まだ期間があるので、そういった方向で進めるということではいいか。可能であれば何かタイアップできるような事業、施設等の研修視察を行えばいい。それでは、所管事務調査は今回でまとめて議会に報告したいと思う。

議件(2) その他

委員長：その他として皆さんから何かあるか。

(なしとの声あり)

委員長：総務産業常任委員会を終了する。本日はどうもご苦労様でございました。